

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
令和元(2019)年度研究開発実施報告書

「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」

研究開発領域

「養育者支援によって子どもの虐待を低減する
システムの構築」

研究代表者 友田 明美
福井大学
子どものこころの発達研究センター 教授

本研究開発プロジェクトは、当初の研究開発期間後の平成30年12月より「研究開発成果の定着に向けた支援制度」の適用となったため、本報告書は同制度適用期間中（平成30年12月～令和2年3月）の実施内容を報告するものである。

目次

1. 研究開発プロジェクト名	2
2. 研究開発実施の具体的内容	2
2-1. 研究開発目標	2
2-2. 実施内容・結果	6
2-3. 会議等の活動	12
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況	13
4. 研究開発実施体制	13
5. 研究開発実施者	14
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など	15
6-1. シンポジウム等	15
6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など	15
6-3. 論文発表	18
6-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）	19
6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等	20
6-6. 知財出願	24

1. 研究開発プロジェクト名

「養育者支援によって子どもの虐待を低減するシステムの構築」

2. 研究開発実施の具体的内容

「養育者支援によって子どもの虐待を低減するシステムの構築」黒田プロジェクトの分担研究グループ（福井大学：友田）で創出された以下の3点を本支援制度の対象とする。

- 1) 本研究開発期間において創出され、論文化された「子ども虐待の発生メカニズムの科学的根拠」と合わせて、関連する国内外の研究成果をわかりやすくまとめた「支援者向け研修教材」の作成による、地域への定着支援を行う。
- 2) 体罰によらない育児を推進するための啓発資料「子どもを健やかに育むために～愛の鞭ゼロ作戦～（H28年厚生労働省）」作成に対し、本グループが既に発表している研究成果の掲載に協力した状況も、研究成果創出として提供する。
- 3) 大阪府こころの健康総合センター所長笹井康典氏コーディネートのもと、友田グループと大阪府内の保健福祉行政・医療関係者及び関連研究者延べ81名で2回に渡り開催した意見交換会では、「マルトリートメント（世界保健機関 [WHO]の定義で、子どもとの不適切な養育・かかわりすべてを指す）」や「アロペアレンティング（以下、とも育て“きょうどう子育て”）」などの概念に対する認知度の低さと、同じ言葉でも専門領域（母子保健、精神保健、児童福祉など）により、その認識に差があることがわかった。子育てにおけるマルトリートメント（以下、マルトリ）予防と子育てで家庭が抱える課題への対応力向上には「支援者間で共通言語を整理し、組織間、自治体間の垣根を越えた協働体制の整備が必要」という結論も研究成果として提供する。

2-1. 研究開発目標

(1) 研究開発成果の定着（最終目標）

子ども虐待防止には、養育者が子どもを虐待する危機的状況になる前に、養育者が抱える健康・育児・生活経済・家族などのリスクを早期に把握し支援する予防対策が重要である。協働実施者（大阪府こころの健康総合センター）は、研究代表者（福井大学子どものこころの発達研究センター・友田グループ）の研究成果「養育者支援推進によるマルトリ予防」などのエビデンスを通して、母子保健、児童福祉、精神保健、全ての担当を一つの行政、市で一体的に運営している中核市の豊中・枚方両市と連携協力し、子育てで家族、地域住民に対して、以下のことを啓発普及する「マルトリ予防モデル」の構築を目指す。

- ・養育者によるマルトリ（しつけという体罰、暴言や脅し、配偶者間DVを子どもに見せるなど）が子どもの脳や発達に好ましくない影響を与える
- ・幼少期のマルトリは成人後の精神疾患にまで影響する(Adverse Childhood Experiences study)
- ・一見健康に見える家族や大人であっても、何らかのマルトリの影響を受けている可能性があることを理解し、それに対応することが大切である（トラウマ・インフォームドケアの概念）
- ・親と子どもの適切なかかわり方（ほめて育てる）が大切なことを知り、対応すること

が、子どもへのマルトリ予防及び精神疾患の予防につながる

具体的には、福井大学子どものこころの発達研究センター友田グループが、豊中市、枚方市の母子保健、児童福祉、精神保健で実際に親子相談に従事する現場職員と「マルトリ（避けたい子育て）、とも育て“きょうどう子育て”」などの共通言語の認識を深め、子育てにおけるマルトリ予防と子育て支援におけるそれぞれの役割の理解を深め、支援者が子育て家庭が抱える課題への対応力を向上させるような支援者向け研修体制作りや、支援者・市民向け啓発資材の作成により、最終受益者である（養育者を含めた）市民に係わるとき（面談など）の助けとなるものを協働で創出していく。研修体制作りや支援者・市民向け啓発資材は、各担当者が支援チームとして協働する基盤構築となり、各々の支援方法の理解を促す。

コンセプトは、母子保健、児童福祉、精神保健など、どの窓口職員でも子どもにとっての「養育者」としてのみ捉えるのではなく、養育者自身の生育歴（例えばマルトリ経験の有無）や生活環境、メンタルヘルスなどに「気づき」「見える化」し、子どものみならず養育者支援に対しても目が向けられるようになり、「マルトリ予防」と「とも育て」が大切であるという共通認識を持つことである。異なる専門領域の支援者が共通の教材による研修を受けることで、家族丸ごと支援する意識を醸成し、支援者間の協働体制を強固にすることを目指す。

本実装事業の取組は、子どもの発達支援にとどまるものではなく、マルトリが全市民の精神の健康に大きく影響していることを啓発していくことに他ならない。妊婦や家族が「マルトリ予防」や「ほめ育て」の意義を理解し、自らが幼少期に受けたマルトリによるトラウマから子育てでストレスや不安が起きていることに「気づき」「見える化」することで対応の仕方を理解する。また、困難を感じたときには相談できる支援者との信頼関係が結べることで、自己肯定感が生まれ、我が子への虐待リスクも軽減される。最終的には、一般市民全体に「マルトリ」「とも育て」に関する概念の理解が広がり、「市民（養育者）が安心して安全な子育てができる地域づくり」が構築されることを、本研究成果の定着と考え、本実装事業「マルトリ予防モデル構築」の全国展開を目指す。

（２）研究開発プロジェクトにおける目標

① A 事業計画の策定およびB 事業計画の実行のための準備

- a) 職員個々の対応力向上及び組織的対応力向上の「マルトリ予防モデル」事業計画書が完成している
- b) 「マルトリ予防モデル」定着、普及を目指した人材育成の「支援者向け研修プログラム」が構築されている
- c) 福井大学が「マルトリ予防モデル」を知的財産として管理し、多地域への展開普及する体制基盤が整っている

② A' コンテンツの整備

A 事業計画策定に向けて、以下のコンテンツを整備するのが具体的目標となる

- a) 支援者向け研修教材及び支援者向け資材、市民向け啓発資材の開発

支援者が、最終受益者である地域社会の市民（養育者）に係わるとき（e.g., 面談など）に利用し、こういった行動がマルトリとなりうるか、どんな影響が子どもにあり、そして大人になってまで影響しうるのか（世代間連鎖）といった科

学的エビデンスのある知識とともに、マルトリをしないようにどう対応したらよいか、困った時にどこに相談を求められるかなど、養育者の対応力向上も目指した説明を助ける「支援者向け研修プログラム」「支援者向けQ&A集」「市民向け啓発資材」にする。

まずは、研究の成果である具体的なエビデンスを研究代表者が紹介し、現場職員のニーズを取り入れ、研究代表者が講師となった30分の「視聴覚教材」を開発する。また個人や小集団で主体的に学習できるように、ポイントを説明した手元資料を作成するとともに、研修効果が確認できる「研修用アンケート」を作成する。研修教材には、共通言語として広めたい「マルトリ」や「とも育て“きょうどう子育て”」の言語や概念を含め、母子保健、精神保健、児童福祉や他の多領域の支援者の誰もが汎用的に利用できるものを目指す。さらに、子育て支援者の知識、対応力向上を深める「科学的根拠のある支援者向け研修教材（総説）」を福井大学中心に現場職員と双方向で開発し、「支援者向け研修プログラム」の一部とし「マルトリ予防モデル」システムを現場に定着させることを目指す。

福井大学と共同で研修体制を構築していくことで得た知識や概念を活用し、豊中市が「市民向け啓発資材」、枚方市が「支援者向けQ&A集」を共同開発していく。「支援者向けQ&A集」の開発は、大阪府全体研修会のアンケート結果や、事業協力者が把握した支援者ニーズを反映し、枚方市が福井大学と協働で作成する。「市民向け啓発資材」は誰もが利用しやすいよう、豊中市が既に運営する子育て応援ポータルサイト「とよふぁみ」のホームページ上にアップできるコンテンツの作成を目指す。開発されたコンテンツは、紙媒体にダウンロードして、乳幼児健診の待合室で見られるようなポスターに拡大して掲示したり、チラシとして配布できるものにする。その他、子どもが集まる場所（保育所や子育て支援センターなど）にも掲示してもらえよう担当部署に働きかけ、広げていくことも「マルトリ予防モデル」システムの一部と捉える。また、乳幼児健診などに来所していない人（DV加害者を含むパートナー、共同養育者となり得る祖父母、親戚、ママ友など）、「とよふぁみ」にアクセスしない人達にも渡せるコンテンツを検討し、これを機に支援がしやすくなるものを考えていく。

いずれも、各自治体相互で共有し、どういった対応がなされたかについての知見を集積することで、対応の効率化および組織間の連携を図る。

b) 「合同研修」及び「支援者向け研修」の実施

本事業では、H30年11月に大阪府主催で大阪府全体研修会を開催し、研究者からの科学的知見の紹介と合わせて、現場職員間でのグループワークを実施し、研修参加者の現状の認識やニーズの調査、及び研修前後での認識の変化などについてアンケートを実施し、事業協力者（豊中市・枚方市）の支援者の現状や問題点の整理の一助とする。

研究代表者は、協働実施者、事業協力者とともに、R1年12月に枚方市を会場に両市合同の研修会を行う。対象は母子保健、精神保健、児童福祉を中心とした「要保護児童対策協議会メンバー」の他、生活保護や税の収納係、転出入を扱う行政窓口など、一般事務職員に普及することも目指す。合同研修の内容は、研究代表者の講演による科学的知見の紹介が中心であり、200名前後の大規模なものを開

催する。

R2年6月には、第2回目の合同研修を豊中市会場で開催する。対象は自治体の状況に合わせてつちも、保育所や教育機関に広げ、一般事務職員の積極的な参加を促し、450名程度の大規模なものとする。事業協力者は、合同研修の計画立案を通して支援者のニーズを把握し、協働実施者も加わり、研究代表者が講師の「視聴覚教材」と「科学的根拠のある支援者向け研修教材（総説）」を活用した「支援者向け研修プログラム」を福井大学と協働で開発する。

共同実施者の大阪府、事業協力者の豊中市、枚方市では、共同で開発した「支援者向け研修プログラム」「支援者向けQ&A集」「市民向け啓発資材」を具体的に活用し、支援者の知識や対応力向上に向けた現場の現状や問題点などについて主体的に整理し活用できる方法等について、実務者中心に話し合い、多地域でも継続普及しやすい「マルトリ予防モデル」を検討していく。

さらに「マルトリ予防モデル」が、大阪府内全市町村及びその他の地域に、プロジェクト終了後も持続して普及展開していけるよう、プロジェクト終了（R3年3月）までに大阪府内に担当部署を決めるとともに、協力体制を整備することを目標に、R2年11月頃に大阪府主催で「プロジェクト報告普及研修」を開催する。

事業協力者の豊中市、枚方市でも「マルトリ予防モデル」が継続展開されるよう、市内で担当部署を決め、取り組んでいくことを目標とする。

開発された「支援者向け研修プログラム」は、プロジェクト最終年度から「支援者向け研修」を希望する大阪府内外の全国の研修主催者に配信し、「研修目的」「主催者」「対象」「受講人数」「支援者向けプログラムの活用方法」「費用」「研修用アンケート」等の結果を蓄積する「マルトリ予防モデル」システムとして、福井大学が知的財産の管理とともに、全国普及の足がかりとして整備していくことを目標とする。

c) 効果検証

合同研修の前後と3か月後に、研修受講者と未受講者に研修の理解度を測る「研修用アンケート」を実施し、「支援者向け研修プログラム」のベースとなる研究代表者の研修の効果検証を費用対効果も合わせて行う。研修未受講者は、研修受講者と同様の母子保健、児童福祉、精神保健分野等の支援者を対象とし、アンケート内容は「支援者向け研修プログラム」の活用で得ることが想定される「マルトリ予防」「とも育て」等の認識や概念の定着（客観的理解度）設問と、業務へのモチベーションの上昇に向けた、研修受講による理解度の自覚的变化（主観的理解度）等を検討することを目指す。効果検証で作成した「研修用アンケート」は、「支援者向け研修プログラム」のひとつとして「支援者向け研修」開催の前後でも実施することが可能なものとし、マルトリ予防の認識概念の普及とともに、自治体内外の連携体制の変化、組織的対応力向上等の客観的指標や虐待予防施策の予算化に活用できるものを目指す。「支援者向け研修プログラム」を活用した「支援者向け研修」は、豊中市、枚方市、自治体、民間機関、領域を問わず、プロジェクト期間の最終年（令和2年）度から開催を始め、プロジェクト終了後も「支援者向け研修」が継続して開催されるよう、実施状況を量的、質的に視覚的に蓄積するシステムを構築し、マルトリ予防普

及の促進を図る。効果検証や「支援者向け研修」実施の蓄積で得られた結果は、大阪府主催の「プロジェクト報告普及研修」の中で、「支援者向けQ&A集」「市民向け啓発資材」とともに紹介し、大阪府内の全自治体及び全国へのさらなる普及を目指す。

2-2. 実施内容・結果

(1) 各実施内容

A 事業計画の策定

今年度の到達点

(目標) 枚方市の実務者の「マルトリ」「とも育て“きょうどう子育て”」などの認識が、支援者に普及する準備が来ている

実施項目①：枚方市の支援者の現状の認識やニーズなどの調査・効果検証

実施内容：

2019年12月4日に事業協力者である枚方市が「枚方市児童虐待問題連絡会議」と共同で、研究代表者が講師で「支援者向け合同研修会（第一回）」を実施し、「マルトリ」「とも育て“きょうどう子育て”」の概念理解や個人の対応力向上の現状認識と、研修後の認識の変化について「研修用アンケート」で効果検証をした。

実施項目②：職員個々の対応力向上及び組織的対応力向上の事業計画立案
実施内容：

合同研修の開催や研修教材、啓発資材作成に向け、研究代表者や協働実施者、事業協力者が「マルトリ予防モデル」システム構築のために、協働事業会議や実務者会議、Zoom会議を実施し、事業協力者内では多機関での話し合いや連携を持っていった。

A' コンテンツ整備

今年度の到達点

(目標) 枚方市職員のマルトリ対応の現状と問題点、研修効果について「研修用アンケート」を作成し、合同研修前後と3か月後に受講者及び未受講者にアンケートを実施し、1回目の集計が来ている

実施項目③：ニーズ調査・効果検証の「研修用アンケート」作成と集計

実施内容：

「支援者向け研修プログラム」を活用で得ることが想定される「マルトリ」「とも育て」等の認識や概念の定着（客観的理解度）と、業務へのモチベーションの上昇に向けた、研修受講による理解度の自覚的変化（主観的理解度）の計11問のアンケートを作成し、第1回合同研修の受講者及び未受講者のアンケートを回収し、集計した。

(目標) 研究成果を踏まえた「科学的根拠のある支援者向け研修教材」を含めた「支援者向け研修プログラム」が作成されている

実施項目④：研究成果を踏まえた「支援者向け研修教材」の開発及び研修プログラムの構築

実施内容：研究代表者が講師となり、研究成果を踏まえた30分の「視聴覚教材」と、ポイントを説明した手元資料、研修効果確認のための「研修用アンケート」及び、知識、対応力向上を深める「科学的根拠のある支援者向け研修教材（総説）」を協働実施者や事業協力者とともに共同開発し、「支援者向け研修プログラム」とした。

実施項目⑤：「マルトリ予防モデル」定着の支援者向け資材・市民向け啓発資材の作成

実施内容：豊中市と枚方市とも実務責任者が決まり、大阪府全体研修会のアンケート結果や、事業協力者が把握した支援者ニーズを反映した「支援者向けQ&A集」を枚方市が福井大学と共同で作成した。豊中市は、既に運営している子育て応援ポータルサイト「とよふぁみ」のホームページ上にアップロードできる「市民（養育者）向け啓発資材」の仕様が決定し、具体的に作成を始めている。

（目標）養育者の問題行動の背景をトラウマの視点でとらえる研修担当者が、豊中市、枚方市とも決まり、研修会場(二回目)、日程、プログラムなどが決定している

実施項目⑥：「マルトリ予防モデル」定着に向けた他PJとの協働体制の構築

実施内容：2019年2月7日に「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」研究開発領域内の「トラウマへの気づきを高める“人-地域-社会”によるケアシステムの構築（大岡PJ）メンバーと情報交換し、2020年3月、本プロジェクト研究代表者と合同研修を企画したが、コロナウィルス感染予防対策のため、中止となった。

B 事業計画の実行のための準備

（目標）福井大学と各中核市との情報共有にかかる契約内容を整理し、協定書を締結する

実施項目⑦：大学と中核市の情報共有にかかる契約内容整理

実施内容：「連携・協力事項と役割」「知的財産などの成果」「個人情報の取り扱い」などに関する項目を立てた協定書を実装地域の事業協力自治体が作成し、事業協力自治体の長である豊中市長、枚方市長と研究代表機関福井大学との間で協定書を締結した。

（目標）プロジェクトで作成した「支援者向け研修プログラム」や「支援者向けQ&A集」「市民向け啓発資材」の管理及びそれらを活用した「マルトリ予防モデル」システムを、各市が継続して取り組むための担当部署が確保できている

実施項目⑧：取り組みを行う体制確保の調整

実施内容：実務責任者を決定し、実務責任者会議や協働事業会議を重ねていく中で、地方自治体は専門職でも異動が多く、人材や予算確保の課題

が見えてきた。

(目標) プロジェクトで開発した人材育成「支援者向け研修プログラム」や「支援者向けQ&A集」「市民向け啓発資材」等の様々な活用方法を蓄積しながら普及する「マルチ予防モデル」システムが、福井大学の知的財産として管理できる体制が整備されている

実施項目⑨：全国展開に向けた福井大学での知的財産・体制などの整備

実施内容：プロジェクトで開発した「支援者向け研修プログラム」「支援者向けQ&A集」「市民向け啓発資材」等、「マルチ予防モデル」の普及を目指した人材育成プログラムとして、福井大学子どもこころの発達研究センターのホームページ上などでダウンロードして活用できるようなシステムを整備するために、福井大学の知的財産部と著作権などについて具体的に整備し、管理体制を整えてきている。

(2) 成果

A 事業計画の策定

今年度の到達点

(目標) 枚方市の実務者の「マルチ」「とも育て“きょうどう子育て”」などの認識が、支援者に普及する準備が来ている

実施項目①：枚方市の支援者の現状の認識やニーズなどの調査・効果検証

成果：合同研修会（第一回）は、児童福祉、母子保健、精神保健、教育等多くの領域、職域、職歴の支援者207名が受講し、同意を得られた167名と未受講者83名が研修前後と3か月後に「研修用アンケート」を実施し、データを回収した。

実施項目②：職員個々の対応力向上及び組織的対応力向上の事業計画立案

成果：年5回の協働事業会議や実務者会議4回、Zoom会議を6回、事業協力者内の多機関が話し合う機会も複数回設定した。

A' コンテンツ整備

今年度の到達点

(目標) 枚方市職員のマルチ対応の現状と問題点、研修効果について「研修用アンケート」を作成し、合同研修前後と3か月後に受講者及び未受講者にアンケートを実施し、1回目の集計が来ている

実施項目③：ニーズ調査・効果検証の「研修用アンケート」作成と集計

成果：「研修用アンケート」を作成し、本プロジェクト研究代表者が講師の合同研修前後では、職域、職歴問わずに効果が見られた。研修3か月後の研修受講群、未受講群のアンケートも回収し、研修の定着効果を検討中である。今後は、2020年6月開催予定の第二回合同研修（豊中市450名参加予定）のデータと合わせた効果検証及び費用対効果を算出する予定である。

(目標) 研究成果を踏まえた「科学的根拠のある支援者向け研修教材」を含めた

「支援者向け研修プログラム」が作成されている

実施項目④：研究成果を踏まえた「支援者向け研修教材」の開発及び研修プログラムの構築

成果：「視聴覚教材」「視聴覚教材の手元資料」「研修用アンケート」「科学的根拠のある支援者向け研修教材（総説）」による「支援者向け研修プログラム」を開発した。

（目標）豊中市、枚方市とも実務責任者が決まり「支援者向けQ&A集」が完成し、支援者の対応力向上に有効な「市民向け啓発資材」の仕様が決まっている

実施項目⑤：「マルトリ予防モデル」定着の支援者向け資材・市民向け啓発資材の作成

成果：枚方市が「支援者向けQ&A集」を作成し、豊中市は、既に運営している子育て応援ポータルサイト「とよふぁみ」のホームページ上にUP出来る「市民（養育者）向け啓発資材」の仕様が決定した。

（目標）養育者の問題行動の背景をトラウマの視点でとらえる研修担当者が、豊中市、枚方市とも決まり、研修会場（二回目）、日程、プログラムなどが決定している

実施項目⑥：「マルトリ予防モデル」定着に向けた他PJとの協働体制の構築

成果：大岡PJメンバーとの情報交換などにより「支援者向けQ&A集」等、支援者向け啓発資材項目の一つに加えた。

B 事業計画の実行のための準備

今年度の到達点

（目標）福井大学と各中核市との情報共有にかかる契約内容を整理し、協定書を締結する

実施項目⑦：大学と中核市の情報共有にかかる契約内容整理

成果：研究代表機関福井大学が、事業協力自治体の長である豊中市長、枚方市長との間で協定書を締結した。

（目標）プロジェクトで作成した「支援者向け研修プログラム」や「支援者向けQ&A集」「市民向け啓発資材」の管理及びそれらを活用して「マルトリ予防」を普及する体制を、各市が継続して取り組むためのシステムの担当部署が確保できている

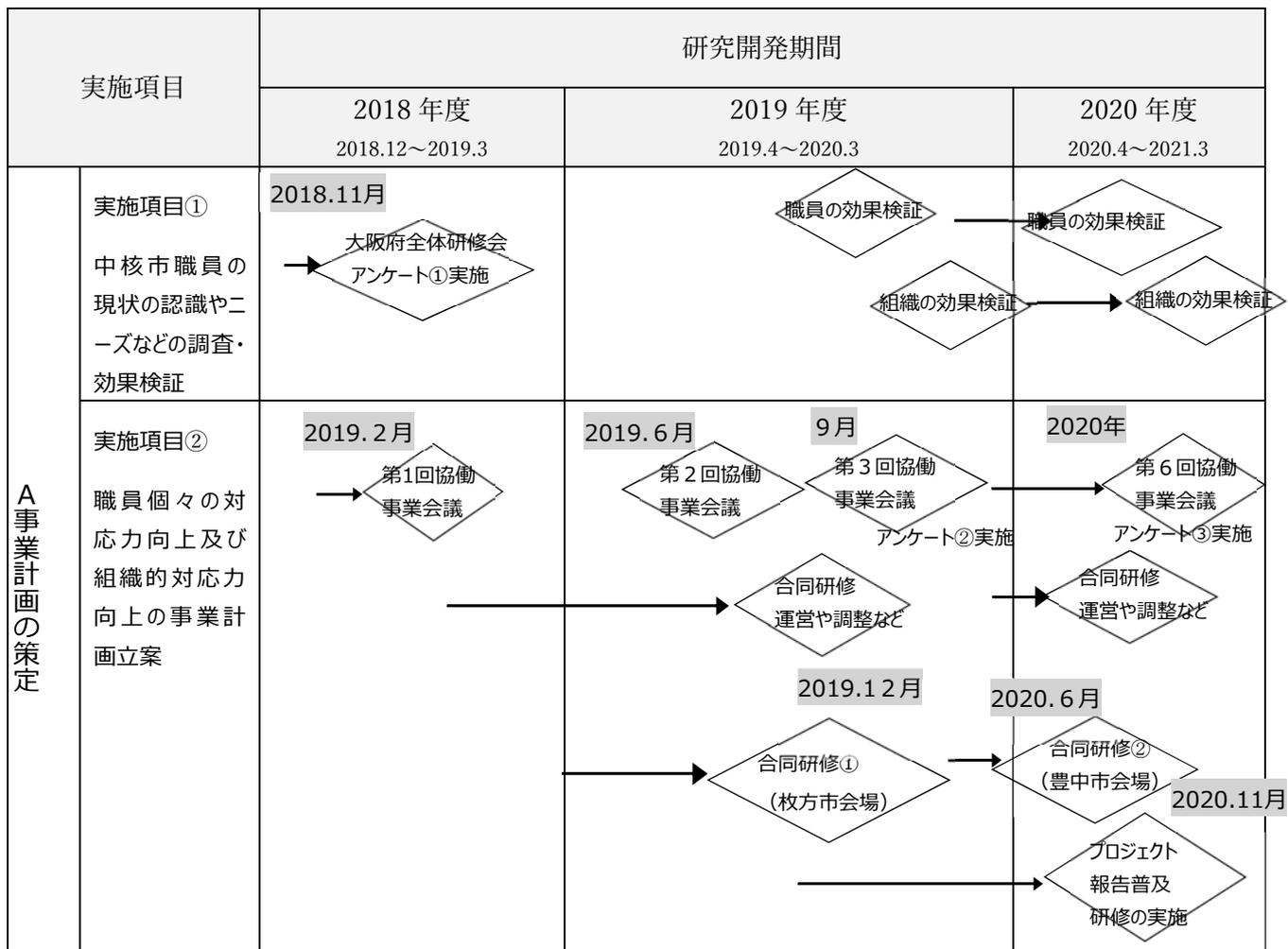
実施項目⑧：取り組みを行う体制確保の調整

成果：「マルトリ予防モデル」を一地方自治体が多地域に展開することは、異動や予算の確保の関係で困難であることが、プロジェクトの会議で課題として見えてきたことから「マルトリ予防モデル」が地域に継続して定着するために、「支援者向け研修プログラム」「支援者向けQ&A集」「市民向け啓発資材」の活用や効果検証、費用対効果分析の結果を視覚化して管理する「マルトリ予防モデル」システムを構築する結論に至り、その担当部署（民間も含む）を検討することになった。

(目標) プロジェクトで開発した人材育成「支援者向け研修プログラム」や「支援者向けQ&A集」「市民向け啓発資材」等の様々な活用方法を蓄積しながら普及する「マルチ予防モデル」システムが、福井大学の知的財産として管理できる体制が整備されている

実施項目⑨：全国展開に向けた福井大学での知的財産・体制などの整備
成果：プロジェクトで開発した「支援者向け研修プログラム」「支援者向けQ&A集」「市民向け啓発資材」各々の著作権などを整理することで、全国展開するために必要な販路や既存のセミナーの活用など、「マルチ予防モデル」システムの普及の足がかりのモデルケースが見つかりつつある。

(3) スケジュール



A コンテンツ整備	実施項目③ ニーズ調査・アンケート作成と効果検証及び費用対分析	→ アンケート作成① → アンケート集計①	→ 研修アンケート作成② → アンケート集計②	→ アンケート集計③③ → 効果検証・費用対効果分析
	実施項目④ 研究成果を踏まえた「支援者向け研修プログラム」の開発と「支援者向け研修」体制の構築	→ 既存の予防手引・マニュアル検討	→ 支援者向け研修プログラムの開発 → 実務者(各市)研修担当者決定	→ 人材育成「支援者向け研修」体制の構築 → 「支援者向け研修」の実施(各市及び希望者)
	実施項目⑤ 「マルチ予防モデル」定着の支援者向け資材・市民向け啓発資材の作成	→ 実務者(各市)資材作成担当者決定	→ 支援者向けQ&A集の作成(枚方市)	→ 市民向け啓発資材の作成(豊中市)
	実施項目⑥ 「マルチ予防モデル」定着に向けた他PJとの協働体制の構築	→ 大岡PJとの情報交換会	→ 大岡PJの企画シンポジウムに参加(コロナにより中止)	
	実施項目⑦ 大学と中核市の情報共有にかかる契約内容整理	→ 中核市との協定書締結		
	実施項目⑧ 取り組みを行う体制確保の調整		7月 → 実務者会議	→ 中核市担当部署確定 → 大阪府担当部署確定
B 事業計画の実行のための準備	実施項目⑨ 全国展開に向けた福井大学での知財・体制などの整備			→ 「支援者向け研修」を普及する「マルチ予防モデル」システムの整備と知的財産の管理

(4) 当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

当該年度当初は、福井大学と共同で開発した「支援者向け研修プログラム」を活用し、各自治体の実務責任者が研修講師を担うことが出来るよう、福井大学スタッフが

支援していく人材育成体制の計画を試みたが、自治体では異動が多く、専門職でも研修担当をおくことや、予算の確保が困難であり、他の自治体に普及していくためにも大きな課題であることが、プロジェクトの会議で見えてきた。そこで、異なる領域でも汎用性がある「支援者向け研修プログラム」「支援者向けQ&A集」「市民向け啓発資料」を活用した研修方法や効果検証の結果を視覚化して管理する「マルトリ予防モデル」システムを構築することが、「マルトリ予防」を地域に継続して定着することにつながるという結論に至り、既に全国規模の普及販路があり、支援者向け研修開催の実績がある機関（民間も含む）の参画を検討することにした。

2-3. 会議等の活動

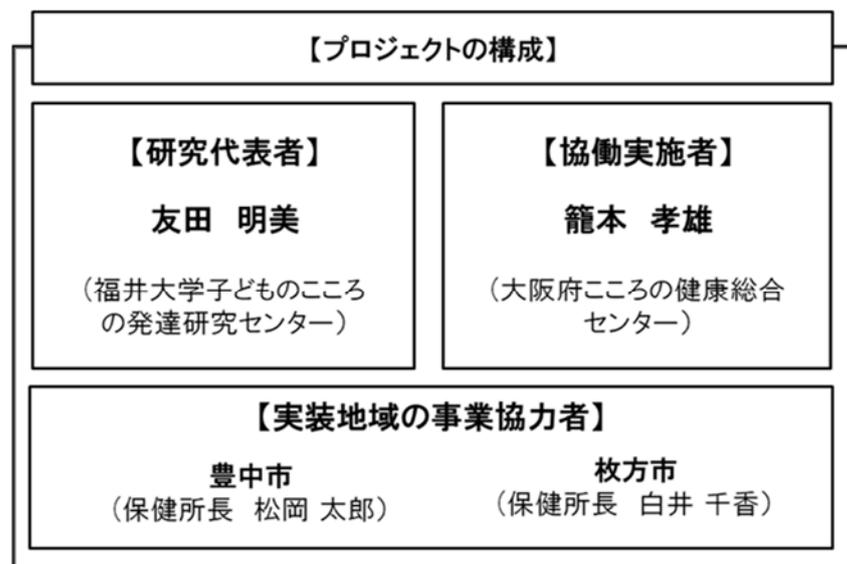
年月日	名称	場所	概要
2019.2.6	事業協力者からの意見聴き取り	豊中市保健センター	事業協力者のニーズ調査
2019.2.7	第1回協働事業会議	大阪府こころの健康総合センター	スクリーニングではない「マルトリ予防」モデルの構築
2019.2.7	大岡PJ情報交換会	新大阪丸ビル別館	トラウマインフォームドケア」「マルトリ予防」などのキー概念について関係者で理解を深める。
2019.2.8	事業協力者からの意見聴き取り	枚方市保健センター	保護者対応での意見集約
2019.4.10	協働事業会議 (事前打ち合わせ)	大阪府こころの健康総合センター	福井大学提供の「マルトリが脳に及ぼす影響」成果による方向性の確認
2019.4.19	事業協力者からの意見聴き取り	豊中市・枚方市各保健センター	合同研修・啓発資料作り(支援者向/市民向)について
2019.6.6	第2回協働事業会議	大阪府こころの健康総合センター	福井大学「研修教材(総説)」と支援者用/市民用資料
2019.7.29	第1回実務者会議	大阪府こころの健康総合センター	実務責任者の役割と「支援者向けプログラム(案)」
2019.9.5	第3回協働事業会議	大阪府こころの健康総合センター	「支援者向けプログラム」進捗と合同研修、効果検証
2019.9.19	枚方市Zoom会議	各職場	12月合同研修とQ&A集の件
2019.10.25	第2回実務者会議	マッセ大阪	研究代表者講演(視聴覚教材・資料)研修用アンケート
2019.11.6	第4回協働事業会議 ・第3回実務者会議	大阪府こころの健康総合センター	合同研修と効果検証・視聴覚教材30分撮り(案)
2019.11.21	枚方市Zoom会議	各職場	合同研修(視聴覚教材撮影)効果検証当日の流れ打合せ

2020.1.7	豊中市・枚方市 Zoom会議	各職場	2020年6月豊中市合同研修 Q&A集進捗・市民向資材仕様
2020.1.21	枚方市Zoom会議	各職場	Q&A集最終入稿原稿など
2020.1.30	第5回協働事業会議 ・第4回実務者会議	大阪府こころの健康総合センター	研修のあり方「支援者向けプログラム」と費用対効果
2020.2.20	枚方市Zoom会議	各職場	Q&A集の初校正後の修正
2020.3.17	枚方市Zoom会議	各職場・日本家族計画協会	Q&A集の再校原稿など

3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

豊中市が啓発資材を作成する前段階として、母子保健担当者の昼食時間を利用して「支援者向けプログラム」の視聴覚教材と手元資料を活用した研修を実施した。また、高校生の授業において担任が「支援者向けプログラム」の視聴覚教材のみを授業で活用し、視聴覚教材を題材にディスカッションを行った報告も得ている。同様に、大学の看護学部の授業で「支援者向けプログラム」の視聴覚教材の利用希望や、自治体職員向けの「30歳セミナー」など、これから専門家になる、あるいは子どもも持たない、専門家でもない支援者にも、本プロジェクトの研究開発成果の活用が期待されている。以上のことも含め、最終年度以降も、対象を限定しない「支援者向けプログラム」のあらたな活用方法が蓄積され、誰もがその活用方法や研修効果を視覚的に実感できるシステムの構築を目指すことで、市民への「マルチ予防」の意識を普及していきたいと考えている。

4. 研究開発実施体制



5. 研究開発実施者

(1) 研究代表者グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
友田 明美	トモダ アケミ	福井大学	子どものこころの 発達研究センター	教授
藤澤 隆史	フジサワ タカシ	福井大学	子どものこころの 発達研究センター	講師
島田 浩二	シマダ コウジ	福井大学	子どものこころの 発達研究センター	助教
滝口 慎一郎	タキグチ シンイチロウ	福井大学	医学部附属病院 子どものこころの 診療部	特命助教
椎野 智子	シイノ トモコ	福井大学	子どものこころの 発達研究センター	特命助教
榊原 信子	サカキバラ ノブコ	福井大学	子どものこころの 発達研究センター	学術研究員
矢尾 明子	ヤオ アキコ	福井大学	子どものこころの 発達研究センター	学術研究員

(2) 協働実施者グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
籠本 孝雄	カゴモト タカオ	大阪府	こころの健康総 合センター	所長
原 るみ子	ハラ ルミコ	大阪府	こころの健康総 合センター	課長
鹿野 勉	シカノ ツトム	大阪府	こころの健康総 合センター	課長
平山 照美	ヒラヤマ テルミ	大阪府	こころの健康総 合センター	参事
小椋 千聡	オグラ チサト	大阪府	こころの健康総 合センター	主査
平川 はやみ	ヒラカワ ハヤミ	大阪府	こころの健康総 合センター	技師
笹井 康典	ササイ ヤスノリ	大阪府	総務部人事局	理事

(3) 事業協力者グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
松岡 太郎	マツオカ タロウ	豊中市	豊中市保健所	部長 (兼) 所長
松浪 桂	マツナミ カツラ	豊中市	豊中市保健所	課長
山羽 亜以子	ヤマハ アイコ	豊中市	豊中市保健所	主幹
岸田 久世	キシダ ヒサヨ	豊中市	豊中市保健所	主幹

(4) 事業協力者グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
白井 千香	シライ チカ	枚方市	健康部保健所	所長
村上 朋子	ムラカミ トモコ	枚方市	健康部保健所 保健センター	課長
上田 智子	ウエダ トモコ	枚方市	健康部保健所	課長
奥崎 裕子	オクザキ ユウコ	枚方市	健康部保健所 保健センター	課長代理
佐々木 美和	ササキ ミワ	枚方市	健康部保健所 保健センター	係長

6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

6-1. シンポジウム等

年月日	名称	場所	参加人数	概要
2019.12.4	マルトリ(困った子育て)が脳に与える影響	輝きプラザきらら (枚方市)	207名	「マルトリ予防モデル」システムを構築するために、研究代表者が講師の合同研修を開催

6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

(1) 書籍・冊子等出版物、DVD等

- ・『脳を傷つけない子育て』、友田明美、河出書房新社、2019年2月
- ・『実は危ない！その育児が子どもの脳を変形させる』、友田明美、PHP研究所、2019年6月
- ・『親の脳を癒やせば子どもの脳は変わる』、友田明美、NHK出版、2019年11月

(2) ウェブメディアの開設・運営

なし

(3) 学会(6-4.参照)以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

- ・ 友田明美. 子どもの健やかな育ちのための養育者支援-アタッチメントとトラウマの脳科学的視点から-. 明治安田こころの健康財団 2018 年度講座 (教育講演) 2018. 12. 2 福岡市
- ・ 友田明美. 子ども虐待と脳科学-アタッチメント (愛着) の視点から-. 広島県西部こども家庭センター講演会 (特別講演) 2018. 12. 9 広島市
- ・ 友田明美. 子ども虐待と脳科学-アタッチメント (愛着) の視点から-. 熊本市医師会創立記念講演会 (特別講演) 2018. 12. 13 熊本市
- ・ 友田明美. DV が子どもに与える影響について. 京都府健康福祉部家庭支援課 DV 被害者支援シンポジウム (特別講演) 2018. 12. 21 京都
- ・ 友田明美. 子ども虐待と脳科学-マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ-. 「児童の養護と未来を考える議員連盟」と「児童虐待から子どもを守る議員の会」の合同勉強会 (特別講演) 2018. 12. 26 東京都
- ・ 友田明美. 子どものこころの発達: 児童虐待と傷ついていく脳. 北陸児童思春期懇話会 (特別講演) 2019. 1. 17 金沢市
- ・ 友田明美. 子ども虐待と脳科学-アタッチメント (愛着) の視点から-. 自民党の児童の養護と未来を考える議員連盟と、超党派の児童虐待から子どもを守る議員の会との合同の勉強会 (教育講演) 2019. 2. 12 東京都
- ・ 友田明美. 養育者支援のための研究開発と社会実装. RISTEX 養育者支援プロジェクト シンポジウム 2019. 2. 23 熱海市
- ・ 友田明美. 子ども虐待と脳科学-アタッチメント (愛着) の視点から-. 永平寺禅の里まちづくり講演会 (特別講演) 2019. 3. 9 福井県永平寺町
- ・ 友田明美. 児童思春期の愛着障害・うつを診る. 第 16 回大阪精神病院協会教育研修部会薬剤師研修会 (特別講演) 2019. 3. 15 大阪市
- ・ 友田明美. 子ども虐待と脳科学-マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ-. 第 13 回 プライマリケア医 (小児科医・総合診療医) のための子どもの心の診療セミナー (教育講演) 2019. 3. 17 草加市
- ・ 友田明美. 子ども虐待と脳科学-アタッチメント (愛着) の視点から-. 鹿児島県医師会主催 知っておきたい 子どもたちの“こころ” 公開講座 (特別講演) 2019. 4. 11 鹿児島市
- ・ 友田明美. 子どもの健やかな育ちを見守る-マルトリートメント (不適切な養育) からの回復のために-. 大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所開設 10 周年記念市民公開講座 「ここまで進んだ! 子どものこころの科学~最新研究から見えてくる発達障害~」 2019. 4. 20 大阪市
- ・ 友田明美. マルトリートメント (不適切な養育) が脳に及ぼす影響-脳科学と子どもの発達-. 熊本県立第一高等学校 平成 31 年度大同窓会 (特別講演) 2019. 4. 29 熊本市

- ・ 友田明美. 子ども虐待と脳科学-マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ-. 女性精神科医による女性のメンタルヘルスを考える会 (特別講演) 2019. 5. 30 東京都
- ・ 友田明美. 子ども虐待と脳科学-マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ-. 日本学校心理士会北東北支部会 (特別講演) 2019. 6. 8 花巻市
- ・ 友田明美. 愛の鞭ゼロ作戦-マルトリートメントが脳に与える影響-. 和歌山子どもの虐待防止協会・公開講演会 (特別講演) 2019. 6. 16 和歌山市
- ・ 友田明美. 子ども虐待と脳科学-アタッチメント (愛着) の視点から-. 第 66 回日本小児保健協会学術集会 (教育講演) 2019. 6. 22 東京都
- ・ 友田明美. 児童虐待と養育者支援-脳科学の視点から-. 日本精神科診療所協会総会シンポジウム「児童虐待」2019. 6. 23 さいたま市
- ・ 友田明美. 子ども虐待と脳科学-マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ-. 埼玉県助産師会講演会 (特別講演) 2019. 6. 23 さいたま市
- ・ 友田明美. 乳幼児期のかかわりが子どもの脳を育てる. HITOWA キッズライフ社員総会講演会 (特別講演) 2019. 6. 29 東京都
- ・ 榊原信子. 児童を取り巻く課題-子どもの SOS サインと地域で出来ること-. 坂井市民生委員・児童委員協議会事務局. 2019. 7. 4 坂井市
- ・ 友田明美. 虐待により傷ついた脳のライフサイクルへの影響. 明治安田こころの健康財団 2019 年度講座 (教育講演) 2019. 7. 6 名古屋市
- ・ 友田明美. 子ども虐待と脳科学-マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ-. 熊本県知的障がい PTA 連合会研修会 (特別講演) 2019. 7. 21 熊本市
- ・ 友田明美. DV や児童虐待に傷つけられる脳 (マルトリートメント) とは-マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ-. 熊本市男女共同参画課講演会 (特別講演) 2019. 8. 5 熊本市
- ・ 友田明美. 子ども虐待と脳科学-アタッチメント (愛着) の視点から-. 第 28 回 松原記念講演会 (特別講演) 2019. 8. 31 金沢市
- ・ 友田明美. 児童虐待と養育者支援-看護技術の未来を見据えて-. 日本看護技術大会 (特別講演) 2019. 9. 7 福井市
- ・ 友田明美. ADHD と類縁疾患の脳科学-ADHD を含む神経発達症の理解-. 第 3 回 小児神経・児童思春期精神医学夏期セミナー九州大会 (教育講演) 2019. 9. 28 大分県由布市
- ・ 友田明美. 小児期マルトリートメントによる影響の神経生物学的知見-アタッチメントとトラウマの視点から-. 第 4 回 医療心理懇話会 (特別講演) 2019. 10. 3 東京都
- ・ 友田明美. 子ども時代に受けた マルトリートメントによる”癒やされない傷”に挑む. 熊本県立第一高校 キャリアガイダンス講演会 (特別講演) 2019. 10. 17 熊本市
- ・ 榊原信子. 子どもの育ちと親子関係-学校が出来ること-. 福井県教育庁 2019. 11. 1 永平寺町
- ・ 友田明美. 子ども虐待と脳科学-マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ-. 聖マリア病院虐待対応委員会講演会 (特別講演) 2019. 11. 9 久留米市

- ・ 友田明美. 子ども虐待と脳科学-マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ-. RISTEX 実装事業講演会 (特別講演) 2019. 12. 4 大阪府枚方市
- ・ 榊原信子. 配慮を要する児童の対応・障がい児受入れ専門研修. 宮崎県児童館連絡協議会. 2019. 12. 13 宮崎県
- ・ 友田明美. 虐待により傷ついた脳のライフサイクルへの影響. 明治安田こころの健康財団 2019 年度講座 (教育講演) 2019. 12. 14 福岡市
- ・ 友田明美. 子ども虐待と脳科学-DVやマルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ-. 第 29 回 大阪精神科病院協会・大阪精神科診療所協会合同学術講演会 (特別講演) 2020. 2. 8 大阪市
- ・ 友田明美. 子ども虐待と脳科学-マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ-. 日本学校心理士会熊本支部令和元年度第 3 回研修会 (特別講演) 2020. 2. 15 熊本市

6-3. 論文発表

(1) 査読付き (9 件)

●国内誌 (3 件)

- ・ 矢澤亜季, 滝口慎一郎, 友田明美. 不適切な養育 (マルトリートメント) と脳. チャイルドヘルス 22(2), 19-22, 2019
- ・ 笹井康典、友田明美、松岡太郎、白井千香. 子どもの虐待防止対策は今のままでよいのか ~マルトリートメント防止を基軸とする対策への転換~. 公衆衛生情報 8月号83_(8), 24-25, 2019
- ・ 藤澤隆史、島田浩二、滝口慎一郎、友田明美. 児童期逆境体験 (ACE) が脳発達におよぼす影響と養育者支援への展望. 精神神経学雑誌 122(2), 135-143, 2020

●国際誌 (6 件)

- ・ Jung M, Mizuno Y, Fujisawa TX, Takiguchi S, Kong J, Kosaka H, Tomoda A. The effects of COMT polymorphism on cortical thickness and surface area abnormalities in children with ADHD. *Cereb Cortex*, 29(9), 3902-3911, 2019. doi: 10.1093/cercor/bhy269
- ・ Yazawa A, Takada S, Suzuki H, Fujisawa T, Tomoda A. Association between parental visitation and depressive symptoms among institutionalized children in Japan. *BMC Psychiatry*, 19:129, 2019. doi: 10.1186/s12888-019-2111-x
- ・ Fujisawa TX, Nishitani S, Takiguchi S, Shimada K, Smith AK, Tomoda A. Oxytocin receptor DNA methylation and alterations of brain volumes in maltreated children. *Neuropsychopharmacology*, 44, 2045-2053, 2019. doi: 10.1038/s41386-019-0414-8
- ・ Shimada K, Kasaba R, Yao A, Tomoda A. Less efficient detection of positive facial expressions in parents at risk of engaging in child physical abuse. *BMC Psychology*, 7:56, 2019. doi: 10.1186/s40359-019-0333-9
- ・ Mizuno Y, Shimono KK, Jung M, Makita K, Takiguchi S, Fujisawa TX,

Tachibana M, Nakanishi M, Mohri I, Taniike M, Tomoda A. Structural brain abnormalities in children and adolescents with comorbid Autism Spectrum Disorder and Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder. *Transl Psychiat*, 9(1):332, 2019. doi: 10.1038/s41398-019-0679-z

- Jung M, Takiguchi S, Hamamura S, Mizuno Y, Kosaka H, Tomoda A*. Thalamic volume is related to increased anterior thalamic radiations in children with reactive attachment disorder. *Cereb Cortex*, Mar 7, 2020. doi: 10.1093/cercor/bhaa051

(2) 査読なし (1 件)

- 友田明美. マルトリートメント予防モデルの構築. 小六教育技術1月号『ドクター友田の脳から読み解く愛着障害&発達障害 第9回』, 2018. 12. 15

6-4. 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

(1) 招待講演 (国内会議 20 件、国際会議 0 件)

- 友田明美 (福井大学). 発達障害と児童虐待に起因する愛着障害との類似と相違: 神経生物学的知見から治療戦略まで. 第24回日本子ども虐待防止学会おかもやま大会 (教育講演) 2018. 12. 1 岡山市
- 友田明美 (福井大学). 子ども虐待と脳科学-アタッチメント (愛着) の視点から-. 日本情動学会広島大会 (教育講演) 2018. 12. 9 広島市
- 友田明美 (福井大学). 子どものこころの発達: 児童虐待と傷ついていく脳. 第33回日本助産学会学術集会 市民公開講座 (教育講演) 2019. 3. 2 福岡市
- 友田明美 (福井大学). 親子の関係性発達が脳の発達に与える影響-アタッチメント (愛着) の視点から-. 日本発達心理学会 国内交流委員会企画シンポジウム 2019. 3. 18 東京都早稲田大学
- 友田明美 (福井大学). 子ども虐待と脳科学 -アタッチメント (愛着) の視点から-. 第30回日本医学会総会 (市民公開シンポジウム) 「母と子のこころを知り、支える」 2019. 4. 28 名古屋市
- 友田明美 (福井大学). 子ども虐待と脳科学-マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ-. 第11回 日本小児科学会長野地方大会 (特別講演) 2019. 5. 26 長野市
- 友田明美 (福井大学). 子どもの健やかな育ちのためのマルトリートメント予防と養育者支援. 第61回 日本小児神経学会学術集会ランチョンセミナー (教育講演) 2019. 6. 2 名古屋市
- 友田明美 (福井大学). 子ども虐待と脳科学-アタッチメント (愛着) の視点から-. 日本小児科学会岩手地方会 (特別講演) 2019. 6. 8 盛岡市
- 友田明美 (福井大学). 子ども虐待と脳科学-マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ-. 日本トラウマティック・ストレス学会 (教育講演) 2019. 6. 15 京都市
- 友田明美 (福井大学). 虐待により傷ついた脳のライフサイクルへの影響. 第21回日本母性看護学会学術集会 (特別講演) 2019. 6. 15 広島市
- 友田明美 (福井大学). 児童期逆境体験 (ACE) とその影響、および養育者支援研

究. 第115回 日本精神神経学会シンポジウム「子どもを虐待したくてしているわけじゃない！-逆境体験（ACE）に精神科医療はどう向き合うか-」2019. 6. 20
新潟市

- ・ 友田明美（福井大学）. 子ども虐待と脳科学-マルトリートメントによる心の痛みと回復へのアプローチ-. 日本ペインクリニック学会第53回大会（招聘講演）2019. 7. 20 熊本市
- ・ 友田明美（福井大学）. マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ～気づき・支え・次世代につなぐ医療者の役割～. 日本子ども虐待医学会函館大会（教育講演）2019. 7. 27 函館市
- ・ 友田明美（福井大学）. 児童虐待と養育者支援-看護師の立場からできること-. 第50回 日本看護学会（ランチョンセミナー）2019. 8. 30 福井市
- ・ 友田明美（福井大学）. 働く母の育児と健やかな子どもの成長のために必要な視点. 日本糖尿病学会中部地方会（特別講演）2019. 9. 7 福井市
- ・ 友田明美（福井大学）. 子どもの健やかな育ちのためのマルトリートメント予防と養育者支援. 第122回 日本小児精神神経学会福井大会（会長講演）2019. 11. 3 福井市
- ・ 友田明美（福井大学）. 親子の関わりが子どもに与える影響について-マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ-. 第22回 奈良県小児保健学会（特別講演）2019. 11. 7 奈良市
- ・ 友田明美（福井大学）. 初期経験がつくる「こころ」と「脳」の発達および感受性期～マルトリートメントによる脳への影響と回復へのアプローチ～. 第5回 日本発達神経科学会（シンポジウム）2019. 11. 24 京都市
- ・ 友田明美（福井大学）. 児童・思春期発症の精神疾患に対する早期介入の重要性～神経生物学的視点から～. 第60回 日本児童青年精神医学会（ランチョンセミナー）2019. 12. 6 那覇市
- ・ 友田明美（福井大学）. 脳科学的な診断技術の進歩（自閉スペクトラム症）. 第60回 日本児童青年精神医学会（教育講演）2019. 12. 6 那覇市

(2) 口頭発表(国内会議 1 件、国際会議 0 件)

- ・ 牧田快、矢尾明子、島田浩二、笠羽涼子、友田明美（福井大学） ADHD児の母親に対するペアレント・トレーニングが子どもの安静時脳機能に及ぼす影響-fMRIを用いた検討-、日本ADHD学会第11回総会、東京、2020. 2. 29（コロナで中止のため抄録受理）

(3) ポスター発表(国内会議 1 件、国際会議 0 件)

- ・ 椎野智子・島田浩二・榊原信子・友田明美（福井大学） マルトリートメントの理解に関する研修効果の検討-子ども虐待を低減するシステムの構築を目指して-、第122回日本小児精神神経学会、福井市、2019. 11. 2-3

6-5. 新聞／TV報道・投稿、受賞等

(1) 新聞報道・投稿（ 62 件）

- ・ 2018年12月3日掲載、NHK NEWS WEB、「注意欠陥・多動性障害の子 脳に共通の特

「発見福井大学」

- ・ 2018年12月3日掲載、「福井大学 科学技術 振興機構（JST）共同発表」、
「ADHDの脳構造の特徴を人工知能により解明し、遺伝子多型の影響を発見」
- ・ 2018年12月4日掲載、日刊県民福井（1面）、「特定の部位に特徴 AI解析 福井大教授ら発見注意欠陥多動障害の子」
- ・ 2018年12月4日掲載、中日新聞（19面）（福井版）、「注意欠陥多動性障害は脳に特徴福井大チームがAIで解析:福井:中日新聞」
- ・ 2018年12月5日掲載、日刊工業新聞（19面）、「福井大、ADHDの脳の特徴発見MRIで検査5分、子どもの負担軽減」
- ・ 2018年12月5日掲載、福井新聞ONLINE、「ADHDの子ども、脳に特徴出現福井大学チームがAIで解析」
- ・ 2018年12月6日掲載、QLifePro 医療ニュース、「ADHDの脳構造の特徴をAIで解明、遺伝子多型の影響を発見—JSTら」
- ・ 2018年12月21日掲載、科学新聞（4面）、「ADHD児 高頻度で脳特定部位に特徴」
- ・ 2018年12月25日掲載、熊本日々新聞（7面）、「深読みTV「プロフェッショナル」おせっかい医師 子育て豊かに」
- ・ 2019年1月5日掲載、大学ジャーナルオンライン、「福井大学、ADHDの脳構造の特徴を人工知能により解明することに成功」
- ・ 2019年1月6日掲載、福井新聞（4面） 週間TVガイド、「深読みTV『プロフェッショナル仕事の流儀』虐待根絶へ医師の情熱」
- ・ 2019年1月10日掲載、朝日新聞（2面） be on Saturday、「be・フロントランナー2018 ランキング」
- ・ 2019年1月19日掲載、BIGLOBEニュース、「親の暴言が子供の脳を傷つける！夫婦喧嘩以上に気を付けなければいけない事とは？」
- ・ 2019年2月3日掲載、聖教新聞（6面）、「子育てはやり直せる 上」
- ・ 2019年2月10日掲載、聖教新聞、「子育てはやり直せる 下」
- ・ 2019年2月17日掲載、毎日新聞（27面）、「法律で体罰禁止54か国 虐待防止に高い効果」
- ・ 2019年3月掲載、DV防止啓発ニュースvol. 13、「DV被害者支援シンポジウムを開催しました」
- ・ 2019年3月6日掲載、北陸中日新聞（2面）、「子の脳傷つきます 親の暴言、夫婦げんか」
- ・ 2019年3月9日掲載、デジタル毎日新聞、「消えない傷—今苦しんでいるあなたへ 友田明美さん「性的虐待で脳が萎縮する」」
- ・ 2019年3月19日掲載、View point、「子育て無免許運転をなくせ」
- ・ 2019年3月19日掲載、熊本日々新聞、「体罰禁止 問われるしつけ」
- ・ 2019年3月25日掲載、北海道新聞（33面）、「子どもを守ろう 第6部 未来に向けて 傷つく脳深まる孤立」
- ・ 2019年4月2日掲載、福井新聞、「【科学する人】虐待の悪影響を実証 脳の変化MRI使い研究 福井大・子どものこころの発達研究センター教授 友田明美さん 『共同子育て広めたい』」

- ・ 2019年4月24日掲載、南日本新聞（13面）、「虐待は脳の発達に影響」
- ・ 2019年5月29日掲載、NHK福井、「虐待児 オキシトシン遺伝子に異常」
- ・ 2019年5月30日掲載、読売新聞（29面）、「虐待児 遺伝子と脳に異常」
- ・ 2019年5月30日掲載、福井新聞（3面）、「虐待 子どものホルモンに影響 脳、愛着形成と関連」
- ・ 2019年5月30日掲載、福井新聞オンライン、「虐待を受けた児童、脳の容積小さく愛情ホルモン働かず愛着形成にも影響」
- ・ 2019年6月2日掲載、しんぶん赤旗（35面）、「暴言部活指導指針できても…脳への悪影響身体暴力より深刻」
- ・ 2019年6月4日掲載、山陽新聞、「科学する人_発達小児科医_友田明美_中」
- ・ 2019年6月5日掲載、朝日新聞（25面）、「暴力のダメージ_子の成長後も_親の体罰失くすには_上」
- ・ 2019年6月11日掲載、山陽新聞、「科学する人_発達小児科医_友田明美_下」
- ・ 2019年6月14日掲載、科学新聞（8面）、「オキシトシンのメチル化率 子供の不適切養育で高まる」
- ・ 2019年6月18日掲載、熊本日新聞（21面）、「科学する人—発達小児科医の友田明美さん上—虐待で脳に変化実証」
- ・ 2019年6月21日掲載、読売新聞（1面）、「子への『懲戒権』見直し」
- ・ 2019年7月5日掲載、熊本日新聞（21面）、「科学する人—発達小児科医の友田明美さん中—親友の不登校で心や体に興味」
- ・ 2019年7月12日掲載、熊本日新聞（16面）、「科学する人—発達小児科医の友田明美さん下—社会全体で子育てを」
- ・ 2019年7月17日掲載、静岡新聞夕刊（1面）、「出口を探して②児童虐待防止」
- ・ 2019年7月20日掲載、中四国・関西医事新報社（14面）、「＜学校レポート＞第18回日本トラウマスティック・ストレス学会」
- ・ 2019年7月27日掲載、福井新聞（7面）、「子育て支援考える異業種交流会開催」
- ・ 2019年8月8日掲載、熊本日新聞（15面）、「DV虐待やめて 熊本市で防止セミナー」
- ・ 2019年8月8日掲載、熊本日新聞（15面）、「児童虐待_小児科の視点_下_「褒め育て」の連鎖_親も自信」
- ・ 2019年8月23日掲載、中日新聞（2面）、「あの人に迫る_友田明美_脳も傷つく虐待社会が止めよう」
- ・ 2019年9月1日掲載、北國新聞、「虐待と脳の関係説明」
- ・ 2019年9月8日掲載、大人んサー、「虐待より広い不適切行為の概念「マルトリートメント」、子育てに悩む親を救えるか」
- ・ 2019年10月17日掲載、熊本県立第一高等学校_最新News、「キャリアガイダンス（全体講演）」
- ・ 2019年10月24日掲載、福井新聞（17面）、「『マルトリ』問題 考えよう虐待、育児放棄など避けるべき養育 来月福井で講座」
- ・ 2019年11月9日掲載、毎日新聞夕刊（3面）、「虐待被害後_なお苦悩」
- ・ 2019年11月11日掲載、日本経済新聞_電子版、「虐待に潜む親の『心の病』孤立防ぎ、早めの治療を」

- ・ 2019年11月29日掲載、たまひよ、「子どもの脳、自尊心が育つほめ方『耳打ち効果』って？」
- ・ 2019年12月2日掲載、たまひよ、「“もう、知らない” 日常的な言葉の暴力が子どもの脳を傷つける」
- ・ 2019年12月8日掲載、たまひよ、「子どもの成長を妨げる『マルトリートメント（不適切な養育）』とは？」
- ・ 2020年1月25日掲載、幻冬舎ゴールドオンライン、「連載_実は危ない！ その育児が子どもの脳を変形させる 第1回_親の何気ない一言で『子どもの脳』は物理的に変形する」
- ・ 2020年1月31日掲載、幻冬舎ゴールドオンライン、「連載_実は危ない！ その育児が子どもの脳を変形させる 第2回_虐待で『脳の傷』ができた子ども…どのような症状が出るのか？」
- ・ 2020年2月8日掲載、幻冬舎ゴールドオンライン、「連載_実は危ない！ その育児が子どもの脳を変形させる 第3回_子どもの脳を変形させる親の行為とは？…小児神経科医が解説」
- ・ 2020年2月10日掲載、子育て世代がつながる東京すくすく_東京新聞、「『マルトリ』は子どもの脳に悪影響 親のつらさをケアしなければ 小児神経科医・友田明美さんが説く『とも育て』」
- ・ 2020年2月15日掲載、幻冬舎ゴールドオンライン、「連載_実は危ない！ その育児が子どもの脳を変形させる 第4回_『言葉の暴力』は身体的暴力よりも『子どもの脳にダメージ大』」
- ・ 2020年2月22日掲載、幻冬舎ゴールドオンライン、「連載_実は危ない！ その育児が子どもの脳を変形させる 最終回_子ども時代に虐待で『脳に大きな傷』…心理療法で回復するか？」
- ・ 2020年3月16日掲載、たまひよ、「子どもの脳や心にダメージを負わず『マルトリートメント』 乳幼児期のかかわり方がカギ」
- ・ 2020年3月17日掲載、たまひよ、「子どもの未来を奪わない！ 脱マルトリ（不適切な養育）のしかり方、かかわり方・小児神経科医」
- ・ 2020年3月18日掲載、たまひよ、「こころが不安定…。マルトリ（不適切な養育）のサインに気づいたら、周囲にSOSを！小児神経科医」

(2) 受賞(2 件)

- ・ 矢尾明子, 日本ADHD学会第10回総会 優秀発表賞, 2019年3月3日
- ・ 友田明美, 国際ソロプチミスト協会-福井 会長賞, 2019年12月17日

(3) その他(4 件)

- ・ 2019年1月19日放送に出演、日本テレビ 世界一受けたい授業、「子どもの脳を変形させるマルトリートメント！第2弾」
- ・ 2019年2月10日放送に出演、Professionals - TV - NHK WORLD - English、「Healing Wounded Families, Akemi Tomoda, Child Neurologist」
- ・ 2019年2月17日放送に出演、福井テレビ タイムリーふくい、「児童虐待…県内状況は」

- ・ 2019年2月18日放送に出演、BS日テレ「深層NEWS」、「親のひと言が虐待に？
子どもの脳に重い傷痕」

6-6. 知財出願

- (1) 国内出願 (0 件)
- (2) 海外出願 (0 件)